



日本ボーイスカウト 愛知連盟 名古屋第67団

**BOY SCOUTS Nagoya Group 67**

## 名古屋67団



**ふくろう通信 33号**  
**H18年3月3日発行**

### 「ふくろう通信」の役割

67団団員長 波多野 俊彦

名古屋67団のホームページ(以下HP)が2004年1月3日に始まり、その後2005年6月3日より新しく後藤団委員さんを管理人として引き継がれ、HPのアクセス数が19000人になろうとしています。このHPにより当団のビーバー隊からベンチャー隊の活動がHP上に掲載され、保護者の皆さんや各隊が互いの活動を知ることができるようになりました。そして「ふくろう通信」は少し影に隠れたかに見えました。しかし、保護者のみなさんが、どの程度HPをご覧になっているかは、はっきりしません。さらにスカウトにはHPを見る機会がうんと少ないと思われます。そして、手にした記事と写真を何度も読んで理解していただける「ふくろう通信」の継続的な発行を望む声も聞かれます。今、30周年記念の「ふくろう通信」1～30号をあらためて読み返してみると、その10年間の名古屋67団の歩みが確かに残されています。そして、当時のスカウト、保護者のみなさん、新聞委員さんや指導者の皆さんの意欲と努力が偲ぶことができます。印刷された「ふくろう通信」がスカウトや保護者のみなさんにも寄稿をお願いして発行され、ゆっくり振り返って見直しながら、これをきっかけに団がひとつの家族のように理解を深め、みんなでスカウトの成長を見守る名古屋67団の姿が、これからの「ふくろう通信」に引継がれていくことを願っています。

### 入隊してから

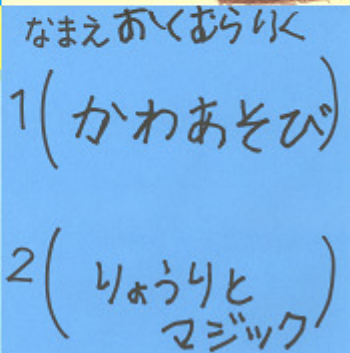
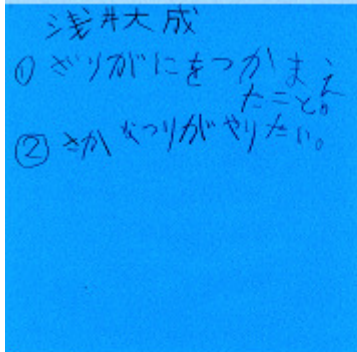
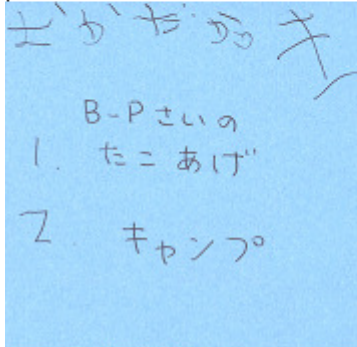
BVS隊保護者 前田 仁美

子供がビーバー隊に入隊してもうすぐ1年になります。その中で特に印象に残っているのは、「春・田植え(全身泥だらけになりました)」「夏・川遊び(魚やカエルを取りました)」「秋・バザー(雨で寒い日でした)」「冬・クリスマス会&餅つき(つきたてのお餅をいっぱい食べました)」など、どれも季節感があり、街中に住んでいる私達は日常、経験できないものがほとんどで、とても新鮮でした。入隊当初は色々心配でしたが、何事も楽しんで積極的に取り組んでくれたので大変うれしく思っています。入隊当初、最年少だった息子も、この春、新1年生です。これから広がる新しい環境の中で、何か困難に直面した時、スカウト活動の経験をもとに、へこたれないで、自分で解決していける人間に育ててほしいです。これからも、スカウトでの子供の成長を楽しみに見守りたいと思います。



ビーバースカウト 寄書き

- ①たのしかったこと。
  - ②やってみたいこと。
- を、みんなにかいてもらいました。



保護者の会より

CS隊保護者 山本 公子

9月からの新体制による活動が始まって、既に半年が経とうとしています。何も分からず保護者の会に携わって参りましたが、今日まで支えて下さった皆様に御礼申し上げます。保護者の会にこの様な形で関わらせて頂いて色々な事が見えてきました。その1つに指導者の熱意です。個人的には様々な事情がある中、スカウトの為に時間を割いて準備し、活動される姿には、人の心を動かすものを感じます。私達、保護者の会もその一端を担う者として、今後も保護者間が親しく交わり、皆様の豊富な経験と新しいアイデアを出し合い、スカウト達が無邪気で元気一杯の笑顔で活動できる様、お手伝いさせて頂きたいと願っています。

自然がいっぱいツリークライミング

CSスカウト 加藤 克紀

11月、ぼくは相生山へハイキングに行きました。ハイキングはとても長い道でした。隊長が森に着いたとき、「森の番人がいる。」と言いました。「しずかにな。」と言ってみんなで歩きました。すると、森の番人が木の上にぶらさがっていました。ぼくたちを見ると、森の番人が、「やっていいよ。」と言ったので、説明を聞いてからツリークライミングをやりました。木の上までのぼるのにかなり時間がかかりました。木によこたわって休んだりして、木の上で遊んでいました。木や葉っぱや遠くのけしきが見えて、自然の広がっている様子がたくさん見えました。つかれたけどいっぱい遊べたのでよかったです。またカブで行けるきかいがあったら行きたいけど、くまなのでたぶん行けないのでざんねんです。



## 神宮街道まっしぐら

VSスカウト 坪井 琢磨

12月29日～31日、熱田神宮から伊勢神宮までの約130kmを歩きました。1日目、朝6時に熱田神宮を出発し、国道1号線沿いを時速5～6kmのペースでひたすら歩きました。まだ歩き始めた為、ペースを乱すことなく、どんどんと進んでいきました。午前10時に桑名市、午後12時45分に四日市市に着きました。ちょうどこの時から足が重くなり、時速3～4kmとペースが乱れ始め、PM4時30分に鈴鹿市に入った頃には、足が棒のようになって、全くといっていい程、動きませんでした。1日目は鈴鹿市で歩くのを止めました。残り70kmです。2日目、足はほぼ完治してAM8時に鈴鹿市を出発しました。さすがに昨日の疲れが残っていましたが、ペースを時速4～5kmと決めてひたすら歩きました。AM11時20分、津市に入りました。今回で1番つらかったのが、「津～松阪」でした。なぜなら歩いて歩いて松阪市まであと何kmという看板が一向に現れず、途中で何度も立ち止まり、今回のハイクを止めようと考えましたが、ここまでつらい思いしてやってきたんだから最後まで歩きたいと決心し、また歩き始めました。この時、時速2kmでのペースしか出せませんでした。ようやくPM3時40分に松阪市に着くことができ、それからは急に足が軽くなり、真っ暗で周りが殆んど見えない時間まで歩きました。3日目、残り30km位だったので、AM8時に出発して、時速4～5kmのペースで向かいました。午前中は足取りも軽く、着々と伊勢神宮までの距離を減らしていきました。しかし、時間が過ぎるにつれ、足取りが重くなり、最後には、完全に足を引きずりながら歩き、PM1時に外宮に、PM2時に目的地の内宮に着くことができました。最後に今回のプロジェクトに協力して下さった佐藤隊長、鈴木副長、山崎隊長、本当にありがとうございました。

伊勢神宮



## 雪中ハイク

BSイーグル班 野尻 浩生

ぼくは、2月5日に藤原岳に雪中ハイクに行きました。グリーンバー(中学生以上)メンバーで、全員一緒に登りました。急な坂ばかりで登りはきつかったけど下りはみんなで一気に滑って下りました。最初に板を使い滑っていたところ止まることが出来なくて、危なかったところ、なんとか木につかまることが出来助かりました。とてもスリルがありおもしろかったです。もうひとつの楽しみは、雪で作るラーメンを食べることです。とても寒い日だったので、おいしかったです。雪中ハイクは、少し疲れたけど楽しかったです。



## B-P祭に参加して

BVS副長 岡田 いづみ

2月19日はB-P祭でした。河原での凧あげということでどんなに寒いだろうと覚悟していたのですが、そんな心配をよそに凧を持って走り回るビーバー隊。そのうちに暖かくなって上着を脱ぐ始末。最初のうちは凧を手に、走り回る凧あげしか経験したことがなく、自分が立ち止まり糸を長くのばしてピンと引っ張るとどんどん高く上がるということが理解できていなかった様ですが、何度もチャレンジしている間に空高くあがった凧を見て思わずこちらが歓声を上げてしまいました。カブやボーイのお兄さん達と河原を後にする時は少し不安そうでもありましたが、普段あまり接することがないボーイ隊のお兄さん達が優しく、とうれしそうに話している子供をみて、異年齢の子供とふれあえるのもボーイスカウトの魅力のかな、と思いました。



## クロスカントリースキー

BS ビーバー班 服部 元樹

1月6日の夜、スカウトハウスを出発して岐阜県の日和田高原へ向かいました。高原に着くのは深夜だからロッジに着いたらみんな寝ます。翌1日目、まず倉庫に板やくつを取りに行きます。スキー板をつけたら、広い場所へ行き、歩きます。慣れてきたら、山の奥の方へ行き、坂道を上がった、下り坂を滑ったりします。滑り終わったら、お風呂に入り、一日の疲れをとります。2日目は、1日目より奥深く山に入り、坂を登ります。長い時間登り続けるから、上に着いた頃には寒さを忘れ、汗をかく位暑いですが、下りは涼しい風を感じながら滑るからすごく気持ちいいです。2日目が終わるとバスで帰ります。そんなクロスカントリースキーでの貴重な体験を忘れないようにしたいと思います。



## 弓矢作り

CSスカウト 岡田 晃大

弓矢作りで曲げる場所は、火であたためて曲がるとは思いませんでした。小刀も思ったよりじょうずにできました。1回だけ弓を変な風に削ったけど、うまく出来ました。テープは形を作って貼ったり、ぐるぐる巻いて貼ったりしました。とても上手に弓矢が作れて、うれしかったです。

## 編集からの一言

いつもスカウト活動への御理解・御協力有難う御座います。ふくろう通信では出来るだけ生の活動をお伝えするために、活動中のスカウトの写真を御提供頂けるととても助かります。また、引続きホームページへの投稿や御意見・御要望のUPも宜しくお願いします。URLは「<http://www.nagoya67.com/>」となっています。

ふくろう通信 新聞部：

野尻、服部、梶間、葭川、小川、  
山崎、後藤、加藤、浅井

